

平成 20 年度 第 3 回巡検会報告

永岡由利子¹⁾・三宅由洋¹⁾

1. はじめに

平成 20 年 10 月 19 日に阿蘇の巡検会が、熊本大学の渡辺一徳先生の案内で行われた。今回の巡検会の主な目的は、阿蘇火山を構成する岩石の観察および岩石標本採集であった。本巡検会の観察地点と、そこでの観察内容は以下に記すとおりである。

最初の観察地点である益城町小谷に向った。目的地では、阿蘇-4 火砕流堆積物の軽石を観察・採集した。その後、西原村医王寺東方の谷川で角閃石安山岩と輝石安山岩、次の旧栃の木温泉入り口にて黒雲母流紋岩の黒曜石を観察・採集し、阿蘇市乙姫にて昼食をとった。同市妻子ヶ鼻で黒雲母流紋岩を観察した後、一の宮グリーンロードで阿蘇-2 堆積物の溶結凝灰岩とスコリアを観察・採集し、大観峰ミルクロードで始良 T_n 火山灰と鬼界アカホヤ火山灰、火山灰土の採集を行った。その後、17 時 30 分頃に熊本大学に到着・解散した。

2. 各観察地点と観察内容の報告

①益城町小谷

ここでは、阿蘇-4 火砕流堆積物の軽石の堆積構造が観察できた。軽石の発泡について、細長いものはマグマの状態です上がってくる時に発泡したものであり、丸いものは地表に出てから後に発泡したものであるとの説明があった。

②西原村医王寺東方の谷川

緑川水系木山川にて角閃石安山岩と輝石安山岩を観察した。角閃石の量が違うのは岩塊の違いやマグマの違いによるものだと説明をうけた。キラキラと光っているものはガラスにひびが入って薄い膜になっているからだとわかった。

③旧栃の木温泉入り口

ここでは黒雲母流紋岩を観察することができ

た。流紋岩は SiO₂ 一般が 72% 以上のもので、白いものがよく知られているが、ここで見られた流紋岩は黒かった。これは、岩石の色は噴出条件や結晶度の違いによって多様であるためであるということだった。

④阿蘇市乙姫

ここ住生岳では普通輝石かんらん石玄武岩を観した。岩石に光をあててルーペでのぞくと、輝石は緑色に見え、かんらん石は茶色に見えたのでそれぞれ判別することができた。

⑤阿蘇市妻子ヶ鼻

ここでは斜面や転石から黒雲母流紋岩を観察することができた。岩石の表面をルーペで見ると、2~3mm の小さな黒雲母が確認できた。

⑥一の宮グリーンロード

ここでは阿蘇-2 火砕流堆積物の溶結凝灰岩とスコリアを観察することができた。阿蘇-2 の下部は強く溶結した溶結凝灰岩で、上部はスコリアを主とする堆積物になっていた。スコリアはきめ細やかな多孔質できれいな黒色をしていた。

⑦大観峰ミルクロード

ここでは始良 T_n 火山灰、鬼界アカホヤ火山灰、黒ボク土、火山灰土がみられた。黒ボク土、赤ホヤ火山灰、AT 火山灰以外の火山灰は中央火口丘の火山灰である。この地点ではところどころに雲仙の火山灰が黒木土にまじっている様子がみられた。

3. おわりに

今回の巡検で資料を準備し、始終丁寧な説明をしていただいた渡辺一徳先生に深く感謝の意を表し、巡検会の報告とする。

1) 熊本大学教育学部学部生